

第4回「ライフコースの分化」(田中重人)

1. **ライフサイクル論の展開**
2. **ライフコースという概念**
3. **性別によるライフコースの分化**
4. **女性のフルタイム継続率の変化**

# 【ライフサイクル論】

Life cycle = 生命をもつものの一生の生活に見られる規則的な推移

(定義は有斐閣『新社会学辞典』1993、以下同様)

e.g. 卵 幼虫 さなぎ 成虫 生殖活動 死  
↳卵 幼虫 .....

# 【ライフコースという概念】

人間の「ライフサイクル」

生殖期間以降の寿命が長い

文化的に決まる部分が多い

Life course = 年齢に分化した役割と出来事を  
経つつ個人がたどる生涯の道

➡文化・時代・個人的選択によって分岐する

Life stages = 人間一生の発達過程に認められる諸段階

乳児 幼児 少年 青年 中年 老年.....

ということになっているが...

**「中年」のところは性別によってすごく違う**

Cohort = 人生における同一の重大な出来事  
を一定の時期に経験した人々のこと

単に「コーホート」といえば出生コーホー  
トを指す

# 【性別によるライフコース分化】

「中年」期の細分類 (家族形態に着目) :

- 単身期
- 夫婦だけの家族
- 養育期
- 教育期
- Empty nest

# 細分ライフ・ステージによる生活時間の変化 (別表参照)

総務庁統計局「社会生活基本調査」

1996 年による

ひとつの世帯でいちばん若い夫婦について、妻および夫の生活時間を計算

「1次活動」は睡眠・食事など

「3次活動」はマスメディア接触など

仕事の面から見ると：

男性は高原型

女性は M 字型

➡ ライフ・ステージによる働き方の調整は  
女性だけがおこなっている



# 【女性のフルタイム継続率】

職業経歴の回顧データをもとに計算。

結婚前にフルタイム職についていた女性のうち、末子誕生までフルタイムに残る者の比率

農林業・自営業の増減の影響のあつかい方がミソ

どのコーホートでも、フルタイム継続率は  
2割程度で一定である